

県南思考 Vol.17

特集：どうする南房総の採石場跡

古くから良質の石材を産出し、「房州石」のブランドで知られた南房総。とくに鋸南町周辺は積み出した石材をそのまま大量に船で運べる地の利もあって珍重されてきました。しかしながら、安価な建築方法の開発や、石材に代わる建築資材の登場によって次第に需要が低迷。露天掘りが多かった採石場は、そのまま大きく穴が開いた状態で残りました。いまその採掘跡の処理をめぐって、さまざまな問題が発生。解決の糸口をさぐりながら、活用法をめぐる議論も始まっています。



特集：どうする南房総の採石場跡

結びの対論

三沢県議×木下県議×亀田県議

政治の力と市民の力、
両方を組み合わせて、なにか有効な
打開策を見出していく必要があります。

三沢 今日、現場を見て回り、推進する会社側と反対する立場の方々と、それぞれの意見を聞いてきたわけですが、はじめのボタンのかけ違い、ほんの小さなことがきっかけでここまで複雑になってしまったのが残念でなりません。

木下 町民の皆さんとの会社側に対する不信感がかなり根強い。会社側がどんなに説明しても、あるいは建設的な提言を行っても、根本に不信感があるように思います。同じように県に対してもある。

亀田 しかし、元をただせば一枚の確約書がきっかけになったわけで、それが区の総会など、地域の町民の方々の民意を反映したものでないことは明らかになっているわけですから、それを無効として、最初からやり直せばよかった。県がもう少し町民の声に耳を傾けていれば、ここまでねじれることはなかったはずなんです。

木下 当初の採取計画には、採掘の終わった採石場の跡地は埋め戻すとハッキリ明記してある。だから、まずその手順を踏んでそこから活用を考えていけばいいはずなんですよ。はたして、これまでのステップで県に落ち度がなかっただろうかと疑問に思いますね。

三沢 しかしここまで進んでしまうと現実的にはスタートラインへは戻っていけないでしょう。

木下 すでに鋸南開発さんも、底面を厚いアスファルトで覆うなど、巨費を投じた工事を完成させてしまっている。

亀田 ただ、なぜあそこで走ってしまったのか、なんどか説明会を繰り返したとはいえ、工事に着手する前に、もう少し住民との理解を深めていれば、ここまでには至らなかっただろう。また、住民の方々も、何か手は打てなかったのかという思いはありますね。

三沢 掘った穴を埋め戻すこと自体に住民の皆さんが反対しているのではないわけで、結局は何を持ってこられるかわからないという不安ですね。

亀田 不安というより、疑心暗鬼でしょうか。いま、館山道の四車線化工事が予定されていますが、その土を持ってきて、さらに第三者を入れてその土を科学的に判断してもらうという考え方では解決できないんでしょうか。

木下 反対側からすれば、基本的に不信感があるから、たとえ自然由来の汚染土壌を持ってきたとしても本当にそうなのか、なにか混ぜているんじゃないかと、疑惑が消えることがない。

漁業、農業、観光への影響

三沢 こわいのは、鋸南町の町長も語っていたように、もしも裁判

木下 敬二（きしらけいじ）

南房総市・安房郡選出
昭和 23 年 5 月 17 日生まれ



事務所 /
〒295-0005 南房総市千倉町牧田 164-1
TEL: 0470-44-4111 FAX: 0470-44-4112
<http://kishitakeiji.com/>
e-mail : info@kishitakeiji.com

亀田 郁夫（かめだいくお）

鴨川市選出
昭和 27 年 2 月 16 日生まれ



事務所 /
〒296-0041 鴨川市東町 665
TEL: 04-7099-0190 FAX: 04-7099-0191
<http://www.kamedai90.com/>
e-mail : ikuo-k@leaf.ocn.ne.jp

三沢 智（みさわさとし）

館山市選出
昭和 29 年 11 月 14 日生まれ



事務所 /
〒294-0037 館山市長須賀 470-1
TEL: 0470-22-3051 FAX: 0470-22-3052
<http://misawa-satoshi.com/>
e-mail : office@misawa-satoshi.com



の結果、事業がみとめられ計画通りに埋め戻しが始まってしまったなら次々に広がって、南房総全体が廃分場になりかねないことです。

木下 鋸南町だけで 7 つの採石場があり、そのうち、2ヶ所は全く稼働していません。掘るだけ掘って、あとを埋めめずにほったらかしにして倒産してしまい、いまは雨水が溜まっている。

亀田 農業、漁業、観光。いずれも影響は大きいでしょう。

木下 もうすでに漁業では取引への影響も示唆されている。もめている段階で、すでにこうなんですから実際に搬入が始まつたらどうなるか。

亀田 ただ、これは千葉県議会でもとりあげられましたが、責任の所在が果たして鋸南開発だけにあるのかどうか。いまはあの会社だけが矢面に立っていますが、果たして一社の責任なのかどうか。

木下 今回の対立で、反対している方たちの主張は市民感情として至極当然です。もちろん会社側にも言い分はある、それでいて間に入った行政は思うように動いてくれない。膠着状態が続くなかで、状況を解決していくのはなんだろうといったら、やはり政治の力しかない。先日、鋸南町の町長と議長が千葉県議会に来た際に、自民党の県議団と面会し、党の中にプロジェクトチームを作ることが決まりました。

亀田 12月定例議会の会期中に、政務調査会長の名前で各議員に対して呼びかけがあり、我々 3 県議全員がメンバーに入って、単にこの問題だけでなく、関連する法律や制度的な課題を検討し、会派をあげて真摯に取り組んでいくことがきまっています。

木下 この状態を打開していくのが政治の力なら、一方でアイデアと工夫をこなし跡地をどう活用していくか、皆で考えながら展開を進めていくのは市民の力。

三沢 館山市の出野尾では、これは採石場ではないんですが、残土処理場の跡地を、市民の声を反映させながら観光みかん園にして営業する一方で、幼稚園などには無料で開放し喜ばれています。

亀田 鴨川の採石場跡は地盤がしっかりしているので、サテライト鴨川の建設敷地になりました。鋸南町もあれだけの広さが確保できるわけですから、サッカーフィールドでもいいし野球場も考えられる。季節の樹木を植えて散策の場所にするのもいいでしょう。大谷石の例を参考に、観光に生かすことも考えられる。活用の道はあるはずです。

三沢 いずれにしても南房総の、鋸南という小さな港町で住民同士が対立しているのは不幸です。対立を深めるのではなくて、もっと前向きにプラスの方向へ進んでいかなければと思いますね。

県南思考 Vol.17

発行：2016年1月16日
制作：「県南思考」制作委員会
編集：式守編集工房
デザイン：野村友紀

南の風を県政に。南房総選出の県議による「県南思考」は市民の皆さんとともに、県南のあるべき姿を追い求めていきます。本誌をお読みになった感想、ご要望、その他ご意見は各県議の事務所までお気軽に寄せください。



特集：どうする南房総の採石場跡

鋸南町だけで7ヶ所の採石場。
この跡地をどう活用すれば、
南房総にとって望ましいのか。

東京湾フェリーが金谷港に近づくと目に飛び込んでくる鋸山。山頂からは富士山が一望され、今年の元旦も初日の出を拝もうと、多くの人でにぎわいました。

もともと富津市から鋸南町にかけては、良質の石材「房州石」を産出することで知られていて、古くは江戸の慶応年間に採掘が始まり、家屋や土蔵の壠、門柱などの建築石材として、また、近年は東京湾の埋立て事業などにも利用されてきました。

しかしながら、石材は建築資材としての位置をセメントにゆずるようになり、次第に規模を縮小。露天掘りが多かったため、採石が終わった跡には、地面をえぐったような大きな穴が残りました。

当然、そこに雨水がたまり、ときに川や海に流れ出し、また粉塵が舞って地域への環境悪化を心配する声も上がっていました。

そこに降ってわいたように発生したのが、鋸南開発㈱による埋立問題です。

民意を反映していない書類

館山道の鋸南富山ICを出たすぐの場所。地元の鋸南開発㈱が、採石後にできた穴を土砂で埋め立てようと千葉県知事に申請したことにより、問題は始まります。

野球場がすっぽり入ってしまうほどの巨大な穴。



計画に反対している本郷区の皆さんにその理由を聞く。(右から)亀田県議、木下県議、三沢県議、須田義二郎区長、吉田誠氏、斎藤正氏



当初の採取計画では、採掘が終わった後は採石場の土砂で埋め、木などを植えて元に戻すよう決められていました。しかしながら今回、別の場所から運んで埋めようと変更されたのです。

過去に騒音、粉塵、ダンプ公害など、採石事業で長く苦しめてきた地域住民は、どんな危険な物質が混ざった汚染土が入ってくるかわからないと、こぞつて反対を表明。

そもそも事業の事前協議を終了させる根拠のひとつとなる書類(環境保全協定の確約書)を、前の区長が民意に



きるようにする用意があります。物質が溶け出さないように(不溶化)処理しますし、穴の底は厚いアスファルトで舗装し遮水構造としています」

と、施設の安全性を主張した上で、「私も地元の住人ですし、町にとってマイナスになる事業は行うはずがありません」

と、力をこめますが、スタート時に問題があったために「どんな説明を受けても信用できない」と、住民の不信感はつのるばかり。



鋸南町にある採石場のひとつに足を運び現場の状況を確認する

はからず独断で提出してしまったことに端を発しているわけで、無効だという我々の主張を県は認め、事前協議をやり直してくれればいい話なんです」

と、本郷区の役員の皆さんは主張します。

一方、今回の事業をすすめる鋸南開発㈱の柴田栄樹社長は、

「わけのわからないものを搬入して埋めることなど法律上できるはずがない。書類やWeb上でしっかりと情報を開示し、場合によっては搬入口に小屋を建てて、いつでも市民の方がチェックで

勝山漁協も「取引先から問い合わせが来るなどすでに漁への影響も出ている(平島孝一郎組合長)」と、反対を表明するなど、お互い主張は平行線を保ったまま、ついに2014年11月、操業の差し止めを求める仮処分申請が裁判所に出され、事態は司法の場へ移るに至りました。

その決着がつくまで、いまはどちらの側にも立つこともできませんが、もしもこれが認められれば、ほかに6カ所ある採石場跡にも次々と汚染土壌が運び込まれ、豊かな自然を誇った南房総が「汚染土の捨て場」になりかねません。

さらに問題なのは、こうした問題がおきると町が賛成、反対派に大きく二分され、お互いに敵視しあって、豊かなコミュニティを築いてきた南房総に暗い影を落としかねないことです。



美しくライトアップされた大谷石の採掘跡。「神秘の地下空間」と、観光客の人気を呼んでいる(大谷資料館)

負の遺産をプラスに反転

かつて南房総の人々の暮らしを支えてきた各地の採石場。その跡地を有効に活用する方法はないのでしょうか。

参考になるのが、同じ建築材として人気を保ってきた栃木県の大谷石です。

旧帝国ホテル本館に使われたことでも有名な大谷石ですが、同じように需要の低迷によって採掘が縮小し、あとには地下の広大な廃坑が残りました。

一時は陥没事故などもあって荒れるに

まかせていましたが、近年、地域一帯を整備しカフェを併設したミュージアムを開設。さらに巨大な地下空間をライトアップし、観光施設として再デビューを果たしました。

石を切り出した直線的な空間がつくる地下神殿のような幻想的な雰囲気が人気を呼び、ファッショショーンショー、映画、テレビの撮影などに使われ、いわば「負」の遺産を産業遺跡としてプラスに反転させることに成功しています。

また、静岡県西伊豆町では、採石場跡

地にメガソーラー(大規模な太陽光発電)を建設。同じ計画は、神奈川県の厚木市などでも行われています。

このようにアイデアひとつで採石場の跡地を観光や事業に再生させているケースがいくつもあります。

なにか南房総でも方法があるのではないか。

採石場跡は地域がうんだ、いわば産業遺跡。その活用をめざし模索が始まっています。



鋸南町の町長におたずねします。

採石場の跡地利用をめぐって町を2分している鋸南開発問題。鋸南町役場に白石治和町長をたずね、ここに至った経緯や今後の展開などをうかがいました。

**背景を知らない読者のために
簡単に経緯を解説してください**

2013年12月20日、千葉県の水質保全課の職員が鋸南町役場を訪れたことで事態が表面化しました。もともと地元の鋸南開発㈱が採掘後の穴を活用し、道路工事などから出る土砂で埋め立てる「汚染土壌埋立処理施設」への転用を県知事に申請していたわけですが、その施設の建設許可を出す際の判断材料になる「環境保全協定」の確約書が住民や町議会の知らないところで本郷区の前区長によって提出されていたことが判明したのです。区ではただちに区長を解任。文書の無効を県に伝えました。ところが県は、背景はともかく文書それ自体は「区長が正式に提出したものだから有効」とし、2014年1月に事前協議終了を強行しています。

**街を二分するほどの事態、
ポイントはどこにあるのでしょうか。**

鋸南開発㈱が当初の計画範囲を超える深掘り



鋸南町の白石治和町長(右)から一連の経緯について説明を受ける木下、亀田、三沢の3県議

ができていれば、こんな事態は招かなかつた。業者にも社会責任があり、県の行政にもある。いまの状態は、両方が社会責任を果たしていないわけです。とにかく認可を受けた採取計画には、採石が終わったら埋め戻すこと書いてあります。住民の方々は埋め戻すことには納得しているわけですから、他から持ってくるものが安全だろうがなかろうが、その前に、まず申請書に従って場内のもので埋め戻して元に復帰してほしいというのが町の立場です。

